

2024年3月期 第3四半期 決算説明会

ウシオ電機株式会社
2024年2月9日

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。



ウシオ電機、経営統括本部長の朝日です。

本日ウェブサイトにて開示した決算資料にもとづき、2024年3月期 第3四半期決算の内容をご説明します。

それでは、スライド2ページをご覧ください。

1. 2023年度 3Q実績は **増収減益**
2. 2023年度 通期業績予想を **修正**
(営業利益以下は維持も、売上高を下方修正)

本日、主に記載の2つについてご説明します。

第3四半期の業績は、前年同期比で増収減益となりましたが、通期業績予想で売上高を見直しています。

また、後程、中期経営計画の状況及びアプライドマテリアルズ社との業務提携についても、ご説明します。

まず、第3四半期の業績についてご説明します。
スライド4ページをご覧ください。

I. 2023年度 3Q業績概要

II. 2023年度 通期業績予想

III. アプライド マテリアルズ社との業務提携

IV. 参考資料

2023年度 3Q : 業績サマリー

売上高
1,325億円

前年同期比 : 41億円増 (+3.2%)

- 半導体及びFPDの市況悪化を受け、Industrial Process事業は減収
- 部材不足解消による映画館向けデジタルシネマプロジェクター(DCP)の販売増加及び円安効果で、Visual Imaging事業は増収

EBITDA*
163億円

前年同期比 : 29億円減 (▲15.4%)

- 増収も、製品ミックス変化及び戦略投資拡大で減益

親会社株主に帰属する
四半期純利益
86億円

前年同期比 : 33億円減 (▲28.0%)

- 【営業外収支】為替差益 2億円(2022年度 3Q : 25億円)

* EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 4

第3四半期の業績サマリーです。
売上高は、3.2%増収の1,325億円となりました。

前期からの半導体及びフラットパネルディスプレイの市況悪化が継続し、インダストリアルプロセス事業は減収。
一方、部材不足の解消が進みデジタルシネマプロジェクターの販売が増加したビジュアルイメージング事業は、円安効果もあり増収となりました。

EBITDAは、15.4%減益の163億円となりました。
増収も、製品ミックス変化や、将来に向けた戦略投資の拡大により減益となりました。

四半期純利益は、前期の為替差益の減少もあり、28.0%減益の86億円となりました。

続いて、EBITDAの増減内容を、ステップチャートでご説明します。
スライド6ページをご覧ください。

2023年度3Q：財務ハイライト



単位：億円	2022年度 3Q実績	2023年度 3Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	1,283	1,325	+41	+3.2%
営業利益 ^{*1}	135	102	▲33	▲24.5%
営業利益率 ^{*1}	10.5%	7.7%	▲2.8P	-
EBITDA ^{*2}	192	163	▲29	▲15.4%
EBITDAマージン	15.0%	12.3%	▲2.7P	-
経常利益	180	126	▲54	▲30.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	120	86	▲33	▲28.0%
EPS (円)	101.81	76.84	▲24.97	▲24.5%
為替レート (円)	USD	136	+7	-
	EUR	140	+15	-

*1 2023年度_3Qで軽微な新規のれん償却を計上。調整後営業利益：103億円

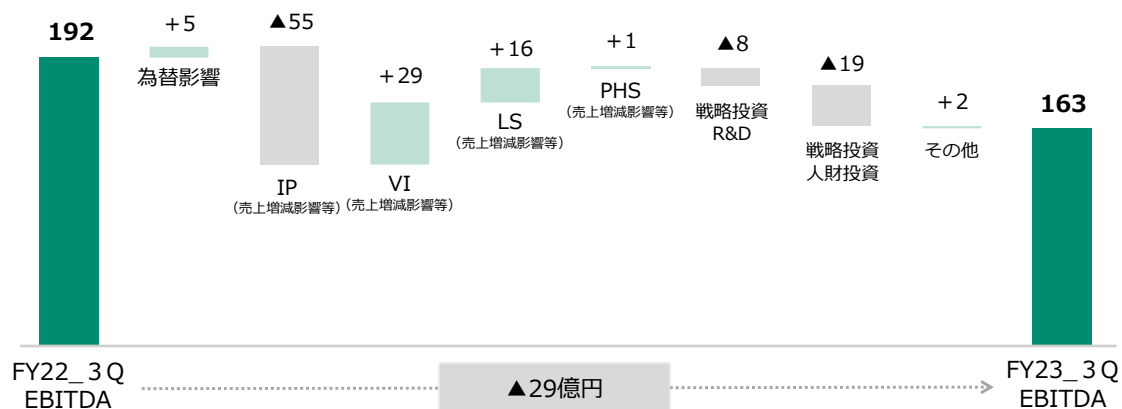
*2 EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved

5

2023年度3Q：EBITDA増減分析(前年同期比)

単位：億円



IP = Industrial Process事業 LS = Life Science事業
 VI = Visual Imaging事業 PHS = Photonics Solution事業

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 6

EBITDA 29億円減益の主な内訳ですが、為替が円安で推移したことにより5億円の増益。

事業面では、売上増減により、インダストリアルプロセス事業が減益も、ビジュアルイメージング事業やライフサイエンス事業で増益となりました。

事業面以外では、将来に向けた戦略投資を合計で27億円拡大させました。

続いて、セグメント別の業績をご説明します。
 スライド7ページをご覧ください。

2023年度3Q：セグメント別業績

	単位：億円	2022年度 3Q実績	2023年度 3Q実績	前年同期比	
				増減額	増減率
Industrial Process	売上高	666	603	▲63	▲9.5%
	営業利益 (営業利益率)	150 (22.6%)	80 (13.3%)	▲70 (▲9.3P)	▲46.6% -
Visual Imaging	売上高	496	592	+96	+19.4%
	営業利益 (営業利益率)	26 (5.4%)	45 (7.8%)	+18 (+2.3P)	+70.3% -
Life Science	売上高	40	40	▲0	▲0.6%
	営業利益 (営業利益率)	▲39 (▲98.7%)	▲16 (▲41.7%)	+23 (+56.9P)	- -
Photonics Solution	売上高	67	79	+12	+17.9%
	営業利益 (営業利益率)	▲1 (▲1.7%)	▲8 (▲10.7%)	▲7 (▲9.0P)	- -
その他	売上高	12	9	▲3	▲25.2%
	営業利益 (営業利益率)	▲1 (▲13.1%)	0 (5.6%)	+2 (+18.7P)	- -
連結合計	売上高	1,283	1,325	+41	+3.2%
	営業利益 (営業利益率)	135 (10.5%)	102 (7.7%)	▲33 (▲2.8P)	▲24.5% -

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved

7

こちらが、セグメント別の結果となります。

次ページ以降で、詳しい内容についてご説明します。

2023年度3Q : Industrial Process事業

単位：億円	2022年度 3Q実績	2023年度 3Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	666	603	▲63	▲9.5%
営業利益	150	80	▲70	▲46.6%
営業利益率	22.6%	13.3%	▲9.3P	-
サブセグメント別売上高				
露光用ランプ	106	105	▲1	▲1.0%
OA用ランプ	51	41	▲9	▲19.1% ③
光学機器用ランプ	92	80	▲12	▲13.4%
光源事業合計	251	227	▲23	▲9.3%
露光装置	258	238	▲19	▲7.7% ②
光学装置その他	157	137	▲20	▲12.8% ①
光学装置事業合計	415	375	▲39	▲9.6%
Industrial Process事業合計	666	603	▲63	▲9.5%

■売上高：前年同期比 63億円減収

- 需要の減少により液晶パネル向け装置の販売が減少 ①
- 最終需要減速で設備投資が抑制され装置の販売が減少 ②
- 主に前期の特需の反動で販売が減少 ③

■営業利益：前年同期比 70億円減益

- 高付加価値製品の販売減少による利益率の悪化
- 光学装置の戦略投資(R&D)の拡大

インダストリアルプロセス事業は減収減益となりました。
売上高は、9.5%減収の603億円。営業利益は46.6%減益の80億円です。

減収の主な要因は、巣ごもり需要の一巡や、サーバーやパソコンなどの最終製品の市況悪化により、関連する設備投資の抑制が発生。液晶パネル関連装置や露光装置、光源の販売が減少しました。

営業利益は、減収による減益に加え、光源や露光装置など付加価値の高い製品の販売が減少したことや、EUVや露光装置で戦略的な開発投資を拡大したことで、利益率が低下しました。

続いて、ビジュアルイメージング事業について、スライド9ページでご説明します。

2023年度3Q : Visual Imaging事業

単位：億円	2022年度 3Q実績	2023年度 3Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	496	592	+96	+19.4%
営業利益	26	45	+18	+70.3%
営業利益率	5.4%	7.8%	+2.3P	-
サブセグメント別売上高				
プロジェクター用ランプ	109	95	▲14	▲13.4% ③
照明用ランプ	23	24	+1	+6.5%
光源事業合計	133	120	▲13	▲9.9%
シネマ	144	235	+90	+63.0% ①
一般映像	218	237	+18	+8.4% ②
映像装置事業合計	363	472	+109	+30.1%
Visual Imaging事業合計	496	592	+96	+19.4%

■売上高：前年同期比 96億円増収

- 部材不足が解消し、置き換え需要を取り込み、DCP販売が増加 ①
- 大型案件の検収(2Q)及び設備投資が堅調に推移し販売が増加 ②
- 一般映像向けプロジェクターの固体光源化でランプ販売が減少 ③
- 円安効果で増収

■営業利益：前年同期比 18億円増益

- 部材価格が正常化し仕入原価が改善
- 一般映像向けハイエンド機種種の販売割合増加で利益率が向上
- 将来のソリューション体制構築に向けた戦略投資の拡大

ビジュアルイメージング事業は増収増益となりました。
売上高は、19.4%増収の592億円。営業利益は、70.3%増益の45億円です。

増収の主な要因は、デジタルシネマプロジェクターにおいて、映画館での置き換え需要を取り込み、販売が拡大したこと。また、一般映像分野で、イベントやアミューズメントパークなどの投資が堅調に推移したほか、第2四半期で大型案件を検収したことにより、販売が増加しました。

一方、プロジェクター用ランプは、固体光源化が加速し、販売が減少しました。

営業利益は、増収に伴う増益効果に加え、部材不足解消により仕入原価が正常化。また、一般映像向けRGBレーザープロジェクターの販売割合が増加したことで、利益率の改善が進みました。一方で、将来を見据えたソリューション体制構築に向けた戦略投資を拡大させました。

続いて、ライフサイエンス事業、フォトンクスソリューション事業について、スライド10ページでご説明します。

2023年度3Q : Life Science事業 / Photonics Solution事業

Life Science事業

単位：億円	2022年度 3Q実績	2023年度 3Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	40	40	▲0	▲0.6%
営業利益	▲39	▲16	+23	-
営業利益率	▲98.7%	▲41.7%	+56.9P	-

■売上高：前年同期比 0億円減収

- 環境衛生向け光源の販売が減少

■営業利益：前年同期比 23億円増益

- 前期の棚卸資産評価損の減少及び環境衛生向けで投資を抑制

Photonics Solution事業

単位：億円	2022年度 3Q実績	2023年度 3Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	67	79	+12	+17.9%
営業利益	▲1	▲8	▲7	-
営業利益率	▲1.7%	▲10.7%	▲9.0P	-

■売上高：前年同期比 12億円増収

- 研究開発用途で顕微鏡向けレーザーモジュール等の販売が増加

■営業利益：前年同期比 7億円減益

- R&D投資の戦略的拡大

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 10

ライフサイエンス事業は減収増益となりました。

売上高は、0.6%減収の40億円。営業利益は23億円増益し、16億円の赤字となりました。

減収の主な要因は、環境衛生向けCare222関連製品の需要が低調で販売が減少したこと。一方、営業利益は、前期に計上した棚卸資産評価損が減少したことや、戦略変更による投資抑制効果で、増益となりました。

フォトニクスソリューション事業は、増収減益となりました。

売上高は17.9%増収の79億円、営業利益は7億円減益の8億円の赤字となりました。

増収の主な要因は、研究開発用途でモジュールの販売が増加したこと。

一方、営業利益は、開発費等の戦略投資拡大により減益となりました。

以上が、第3四半期業績の説明となります。

続いて、通期業績見通しについてご説明します。

スライド12ページをご覧ください。

I. 2023年度 3Q業績概要

II. 2023年度 通期業績予想

III. アプライド マテリアルズ社との業務提携

IV. 参考資料

2023年度 通期業績予想について

足元の事業環境変化を反映し 通期業績予想を修正（営業利益以下は維持も、売上高は下方修正）

売上高	<ul style="list-style-type: none"> ● 1,780億円（前回予想から100億円下方修正） <ul style="list-style-type: none"> - Industrial Process事業（+20億円 上方修正） <ul style="list-style-type: none"> ・ 想定より液晶パネル関連の稼働が改善。また、保守メンテナンス収入が上振れる見込み - Visual Imaging事業（▲120億円 下方修正） <ul style="list-style-type: none"> ・ ハリウッドストライキや中国経済悪化の影響により販売が想定を下回る見込み
営業利益	<ul style="list-style-type: none"> ● 125億円（前回予想維持） <ul style="list-style-type: none"> - Industrial Process事業（+10億円 上方修正） <ul style="list-style-type: none"> ・ 増収効果に加え、一部露光装置の検収前倒しで原価が抑制され利益率改善を見込む - Visual Imaging事業（▲10億円 下方修正） <ul style="list-style-type: none"> ・ 減収に伴う減益も、製品ミックス良化や部材コストの早期改善による利益率改善を見込む
EBITDA*	● 210億円（前回予想維持）
当期純利益	● 100億円（前回予想維持）
為替前提	● 4Q為替レート USD : 135円、EUR : 145円

* EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 12

通期業績予想は、足元の事業環境変化を鑑み、全社ベースで売上高を100億円下方修正しました。一方、営業利益以下は、期初計画から変更なく、維持します。

主な修正の内容ですが、売上高は、インダストリアルプロセス事業で20億円上方修正するも、ビジュアルイメージング事業で120億円下方修正します。これは、ビジュアルイメージング事業で、ハリウッドのストライキや中国経済悪化による業績への影響が、想定以上に発生する見込みとなったためです。

一方、営業利益は、ビジュアルイメージング事業の減収による減益影響があるものの、インダストリアルプロセス事業における増収効果や利益率の改善。また、ビジュアルイメージング事業においても、製品ミックス良化や部材コストの改善が進んだことから、期初計画を変更せず、維持します。

詳しい係数はスライド13、14ページを参照ください。

それでは、これらの修正を加味したセグメント別の通期業績予想について、第4四半期の見通しを踏まえご説明します。

スライド15ページをご覧ください。

2023年度 通期業績予想：修正内容及び財務ハイライト

単位：億円		今回	前回 2023.5.11	差異	2022年度 通期	増減額	増減率
売上高		1,780	1,880	▲100	1,750	+29	+1.7%
営業利益*1		125	125	-	158	▲33	▲21.2%
営業利益率*1		7.0%	6.6%	+0.4P	9.1%	▲2.0P	-
EBITDA*2		210	210	-	236	▲26	▲11.2%
EBITDAマージン		11.8%	11.2%	+0.6P	13.5%	▲1.7P	-
経常利益		140	140	-	201	▲61	▲30.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益		100	100	-	136	▲36	▲27.0%
EPS (円)		90.58	90.58	-	115.69	▲25.11	▲21.7%
ROE (%) *1		4.3%	4.3%	-	5.7%	▲1.4P	-
年間配当 (円)		50	50	-	50	-	-
為替レート (円) *3	USD	141	135	+6	135	+6	-
	EUR	153	145	+8	141	+12	-

*1 2023年度の営業利益、営業利益率及びROEの目標値は、新規のれん償却を除いて算出

*2 EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

*3 4Qの為替レート前提は、USD：135円、EUR：145円（3Q累計期間為替レート実績は、USD：143円、EUR：155円）

(参考) 為替感応度：1円変動による影響額(通期)【対USD】売上高：約12.0億円、営業利益：約1.3億円

2023年度 通期業績予想：セグメント別業績 修正内容

単位：億円		今回 ^{*1}	前回 ^{*1} 2023.11.6	差異	2022年度 (参考値 ^{*2})	増減額	増減率
Industrial Process	売上高	830	810	+20	900	▲70	▲7.8%
	営業利益 (営業利益率)	100 (12.0%)	90 (11.1%)	+10 (+0.9P)	184 (20.5%)	▲84 (▲8.4P)	▲45.7% -
Visual Imaging	売上高	780	900	▲120	683	+96	+14.1%
	営業利益 (営業利益率)	55 (7.1%)	65 (7.2%)	▲10 (▲0.2P)	32 (4.8%)	+22 (+2.2P)	+67.2% -
Life Science	売上高	45	45	-	56	▲11	▲19.9%
	営業利益 (営業利益率)	▲20 (▲44.4%)	▲20 (▲44.4%)	-	▲51 (▲91.4%)	+31 (+47.0P)	- -
Photonics Solution	売上高	105	105	-	92	+12	+13.4%
	営業利益 (営業利益率)	▲10 (▲9.5%)	▲10 (▲9.5%)	-	▲2 (▲3.2%)	▲7 (▲6.4P)	- -
その他	売上高	20	20	-	17	+2	+14.1%
	営業利益 (営業利益率)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	-	▲4 (▲26.9%)	+4 (+26.9P)	- -
連結合計	売上高	1,780	1,880	▲100	1,750	+29	+1.7%
	営業利益 (営業利益率)	125 (7.0%)	125 (6.6%)	- (+0.4P)	158 (9.1%)	▲33 (▲2.0P)	▲21.2% -

*1 2023年度の営業利益及び営業利益率は、新規のれん償却を除いて算出

*2 2022年度の各セグメント数値は、比較を目的に当社が作成した参考値

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 14

2023年度 通期業績予想 : Industrial Process事業

単位：億円	2022年度 (参考値)	2023年度 予想 (修正後)	前期比		通期予想 に対する 3Q進捗率
			増減額	増減率	
売上高	900	830	▲70	▲7.8%	72.7%
営業利益	184	100	▲84	▲45.7%	80.4%
営業利益率	20.5%	12.0%	▲8.4P	-	-

* 各セグメントの2022年度の値は比較を目的に当社が作成した参考値

4Qコメント(対3Q進捗)

- 露光装置の検収が一部3Qへ前倒しも通期は計画通り推移
- 光学装置の利益率が低下
 - 将来に向けた戦略投資(R&D)が増加
 - 市況悪化による一時的な生産調整で稼働損が発生

■事業環境

全般的に不透明な景況感が継続

- 半導体市場は、需要回復の兆しが見えつつも、最終製品の需要減速で稼働調整が継続
- ICパッケージ基板市場は、足元で投資の抑制が発生も、FY24後半より徐々に回復し、中長期での需要拡大を見込む
- FPD市場は、巣ごもり需要一巡で稼働が低下し、当面横ばいを見込む

■売上高：前期比 70億円減収

- 露光用ランプは、前期の市況好調の反動により減収を見込む
- 露光装置は、投資先送りにより、減収を見込む
- EUVマスク検査用光源は、光源本体の販売が減少。メンテナンス収入は増加も、今後、半導体市況悪化の影響で稼働低下の可能性あり

■営業利益：前期比 84億円減益

- 将来の製品競争力強化に向けた戦略投資(R&D)拡大を見込む
- 高付加価値製品の販売減少による利益率の悪化を見込む

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 15

インダストリアルプロセス事業ですが、先ほどご説明した通り、売上高、営業利益ともに上方修正するものの、通期では、前期比で減収減益の状況に変わりはありません。

市況は回復の兆しが見えつつありますが、足元は、前回ご説明した状況から大きな変化はなく、半導体やフラットパネルディスプレイの市況悪化の影響を受け、減収減益となる見込みです。

期初から第3四半期にかけては順調に増収増益傾向となりましたが、第4四半期については、露光装置の一部で第4四半期から第3四半期へ検収が前倒しとなった影響。また、将来に向けたR&D戦略投資を行うことや、市況悪化により一時的に露光装置の生産稼働が低下する影響で、利益率が落ち込む見込みです。

次のページで主要製品の最新の状況をご説明します。
スライド16ページをご覧ください。

最新の状況 (更新)	売上高推移 (更新)
<p>■最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置及びダイレクトイメージング露光装置</p> <ul style="list-style-type: none"> ICパッケージ基板市場は、中長期の成長拡大想定は変わらずも、足元はサーバー及びパソコンの市況悪化に伴い、関連する設備投資の抑制が発生 => 関連市場の回復はFY24後半以降を想定 その影響でFY24は一時的な落ち込みが発生するものの、FY24を底に再び成長拡大の見込み 生成AIの本格普及によるAI関連投資が拡大 パッケージ基板の大型化やチップレット化が加速し、高度なパッケージ基板ニーズが高まっている => アプライドマテリアルズ社との業務提携により、最先端ICパッケージ基板向けのフルラインアップ化を目指す 	<p style="text-align: center;">投影露光 (U-X-5)</p> <p style="text-align: right;">精査中</p>
<p>■EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源</p> <ul style="list-style-type: none"> FY24以降は期初計画から変更なくも、足元の半導体市況悪化の影響から、今後稼働調整による業績影響の可能性あり。一方で、TCO低減への取り組みは継続 今後のEUVリソグラフィ技術の更なる進展(High-NA)をターゲットとした新規顧客獲得への取り組みは着実に進展も、採用拡大は当初想定より後ろ倒しとなる見込み 	<p style="text-align: center;">本体+メンテナンス</p> <p style="text-align: right;">精査中</p>

先端ICパッケージ基板に関連する露光装置については、最新の認識では、2024年度後半以降徐々に回復すると見込んでいます。2024年度は落ち込みが発生し、販売が減少しますが、これは一時的な影響と考えており、2024年度を底に、再び成長拡大する見込みです。

また、昨年12月13日にリリースしたアプライドマテリアルズ社との業務提携により、今後のICパッケージの高度化にも対応する製品ラインアップ強化を進め、着実に成長させていきます。

アプライドマテリアルズ社との業務提携については、後程、ご説明します。

EUVマスク検査用光源については、来期以降の状況について、現在精査中ですが、一部で稼働の低下が懸念され、引き続き、TCO低減への取り組みを継続することで、収益性への影響を最小化できるように取り組んでいきます。

また、新規顧客獲得への取り組みは着実に進んでいるものの、これによる成長拡大は、想定より後ろ倒しとなる見込みですが、High-NAの進展に伴う付加価値の高い検査光源のニーズをしっかりと取り込めるよう開発を進めてまいります。

続いて、スライド17ページをご覧ください。

2023年度 通期業績予想：Visual Imaging事業

単位：億円	2022年度 (参考値*)	2023年度 予想 (修正後)	前期比		通期予想 に対する 3Q進捗率
			増減額	増減率	
売上高	683	780	+96	+14.1%	76.0%
営業利益	32	55	+22	+67.2%	83.6%
営業利益率	4.8%	7.1%	+2.2P	-	-

* 各セグメントの2022年度の値は比較を目的に当社が作成した参考値

4Qコメント(対3Q進捗)

- ・ シネマは、季節性による需要減に加え、ハリウッドストライキによるコンテンツ不足影響及び中国経済悪化による新設投資の減退により、販売が減少
- ・ 一般映像は、中国経済悪化による投資抑制あり
- ・ 将来に向けた戦略投資が増加

■事業環境

コロナから回復、部材不足も解消へ 一方、ハリウッドストライキや中国経済悪化の影響を受ける

- シネマ市場は、投資意欲は回復し置き換え需要が本格化も、ハリウッドストライキによるコンテンツ不足で映画館での一時的な稼働低下や投資抑制及び中国経済悪化で新設の抑制影響あり
- 一般映像市場は、全世界的にイベントやテーマパークなどの設備投資が堅調も、中国経済悪化による投資意欲減退の影響あり

■売上高：前期比 96億円増収

- DCPは、一時的な投資抑制影響があるも、部材不足解消と映画館のDCP置き換え需要で販売増加を見込む
- 一般映像機器は、中国経済悪化の影響があるも、全世界の需要は堅調で販売増加を見込む
- プロジェクター用ランプは、固体光源化影響で販売減少を見込む

■営業利益：前期比 22億円増益

- 増収効果に加え、SCM改革や部材不足緩和による収益率改善を見込む
- 将来のソリューション体制構築に向けた戦略投資拡大を見込む

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 17

ビジュアルイメージング事業は、売上高、営業利益の下方修正を行いました。前期比で増収増益の状況に変わりはなく、シネマにおいて、今後も安定した映画館での置き換え需要が期待できます。また、一般映像についても、高度な映像演出ニーズが継続することから、需要は堅調に推移すると見込んでいます。

第4四半期については、シネマの季節性による需要減少に加え、ハリウッドストライキや中国経済悪化の影響を受け、第3四半期からは減収減益となる見込みです。

シネマ及び一般映像の詳しい最新状況は、スライド18ページに記載していますので、後程、ご覧ください。

また、ライフサイエンス事業、フォトンクスソリューション事業については、期初計画より変更はありませんので、後程、スライド19ページをご確認いただければと思います。

続いて、スライド20ページをご覧ください。

項目	最新の状況 (更新)	プロジェクター販売台数推移 (更新)
シネマ市場	<ul style="list-style-type: none"> シネマ市場は概ねコロナ前の稼働率へ回復 前期に発生した部材不足は解消し、仕入原価も正常化 足元でハリウッドストライキや中国経済悪化の影響があるものの、DCP置き換え需要は、FY24以降も安定した推移を見込む 映画館の付加価値重視の傾向が続き、高付加価値なRGB機種種の販売が増加傾向 	<p>■ RGBレーザー ■ ランプ</p> <p>コロナ及び部材不足影響</p> <p>FY19 FY20 FY21 FY22 FY23 見通し FY24 以降</p>
一般映像市場	<ul style="list-style-type: none"> イベントやテーマパークなどで複雑な大規模演出用途が拡大 最先端の映像演出を求め、投資は拡大傾向 ハイエンドセグメントでは新技術の取り入れなど付加価値の高いRGB機種種の割合が増加 足元は、中国経済悪化による投資意欲減退の影響を注視 	<p>■ RGBレーザー ■ ランプ&LaPh</p> <p>FY19 FY20 FY21 FY22 FY23 見通し FY24 以降</p>

2023年度 通期業績予想 : Life Science事業 / Photonics Solution事業

Life Science事業

単位：億円	2022年度 (参考値)	2023年度 予想 (修正後)	前期比		通期予想 に対する 3Q進捗率
			増減額	増減率	
売上高	56	45	▲11	▲19.9%	89.2%
営業利益	▲51	▲20	+31	-	-
営業利益率	▲91.4%	▲44.4%	+47.0P	-	-

4Qコメント(対3Q進捗)

- 販売は低調、戦略投資は計画通り実施

■事業環境

医療業界で光を使った機器需要が緩やかに伸長

■売上高：前期比 11億円減収

- 環境衛生向けで戦略変更による減収を見込む

■営業利益：前期比 31億円増益

- 前期の棚卸資産評価損の減少及び環境衛生向け販売投資の抑制による増益を見込む

Photonics Solution事業

単位：億円	2022年度 (参考値)	2023年度 予想 (修正後)	前期比		通期予想 に対する 3Q進捗率
			増減額	増減率	
売上高	92	105	+12	+13.4%	75.5%
営業利益	▲2	▲10	▲7	-	-
営業利益率	▲3.2%	▲9.5%	▲6.4P	-	-

4Qコメント(対3Q進捗)

- 販売は堅調、戦略投資は計画通り実施

■事業環境

光源の固体光源化及びエネルギー効率向上の動きにより堅調に推移

■売上高：前期比 12億円増収

- メディカルヘルスや産業用センサー市場などでの販売増加を見込む

■営業利益：前期比 7億円減益

- フォトニクスアプリケーション向けR&D投資拡大を見込む

* 各セグメントの2022年度の値は比較を目的に当社が作成した参考値

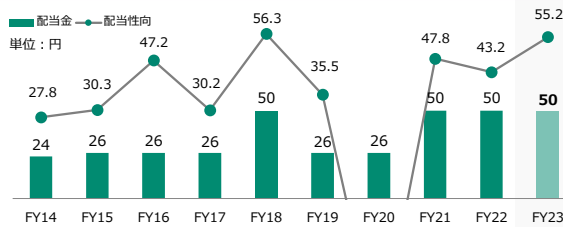
株主還元

1株当たり
期末配当額

【配当方針】

安定的な配当

2023年度は **50円/年** を継続



自社株買い

【自己株式取得の方針】

機動的に実施

なお、保有する自己株式は、発行済株式総数の5%を上限とし、発行済株式総数の5%を上回る部分については毎年消却を実施

2023年5月11日リリース

取得期間：2023年5月29日～2024年5月10日

買付予定金額： **300億円(上限)**

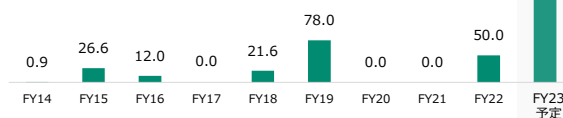
買付予定株数： **2,000万株(上限)**

自社株式取得は順調に進展

2024年1月31日時点の買い付け状況(累計)

買付金額 **244.5億円**、買付株数 **12,789千株**

単位：億円



株主還元ですが、期初公表時から変更はなく、1株当たり50円の配当を実施予定です。

また、自社株投資ですが、1月末時点で買付金額が244億円に達し、進捗率は約82%となり、順調に買い付けが進んでいます。詳しくは、2月2日付けのリリースをご確認ください。

■最新状況

- ・ サーバーやパソコン関係の市場停滞が長期化し、関連する設備投資の抑制が発生。これに伴い、ICパッケージ基板向け露光装置の足元の環境は厳しくなっている
- ・ このような事業環境変化を踏まえ、新経営体制で中長期の成長戦略の検証を実行中

■今後の方向性

- ・ 足元の環境悪化による事業影響の確認
- ・ 中長期のICパッケージ基板市場の環境及びアプライドマテリアルズ社との業務提携を踏まえた成長戦略の構築
- ・ 事業ポートフォリオ戦略の再構築
- ・ 成長戦略と連動した資本効率改善及びPBR1倍超への道筋の検証

通期決算発表を目途に、中期経営計画1年目の振り返りとともに、再検証結果を合わせて報告予定

最後に、中期経営計画の状況について、ご説明します。

ここまでお伝えしてきたように、半導体市況等の環境変化に伴い、ICパッケージ基板向け露光装置の足元の環境は、厳しい状況にあります。同市場は、2024年度後半より徐々に回復すると見ていますが、最新の事業環境を踏まえ、先日発表した新経営体制のもと、中長期での成長戦略の検証を行っています。

検証の結果については、次回通期決算発表を目途に、現中期経営計画1年目の振り返りとともに、ご報告できるよう進めております。

足元の事業環境変化による業績影響を確認するとともに、中長期で成長拡大が期待できるICパッケージ基板市場においては、アプライドマテリアルズ社との業務提携を踏まえた成長戦略を再構築しています。

同時に、事業ポートフォリオ戦略を再構築しています。

現中期経営計画にて取り組んでいる資本効率改善及びPBR1倍超に向けた取り組みは、成長戦略と連動した道筋を検証してまいります。

決算に関する説明は以上となりますが、本日は、昨年12月にリリースしました、アプライドマテリアルズ社との業務提携の概要について、補足させていただきます。

スライド23ページをご覧ください。

I. 2023年度 3Q業績概要

II. 2023年度 通期業績予想

III. アプライド マテリアルズ社との業務提携

IV. 参考資料

■業務提携による目的

当社の20年以上のパッケージング向け露光装置の開発・製造実績と、アプライド マテリアルズ社の新しいデジタルリソグラフィテクノロジー(DLT)を融合することで、これらの技術的課題を解決できるソリューションの提供が可能となります。

この戦略的パートナーシップにより、最先端半導体パッケージ基板市場における露光装置のリーディングカンパニーとして、当社が保有する同市場領域での事業基盤を更に強固なものとし、中長期でのロードマップに沿った戦略を強化(製品ポートフォリオ拡大)することで、当社の中核事業である Industrial Process 事業の中長期での更なる成長拡大を目指してまいります。

ご参考：「[Applied Materials, Inc.との最先端半導体パッケージ市場向け次世代露光技術開発における戦略的パートナーシップ締結のお知らせ](#)」(2023年12月13日付リリース)



Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 23

今回のアプライドマテリアルズ社との業務提携ですが、最先端ICパッケージ基板市場における露光装置のリーディングカンパニーとして、事業基盤を強固なものとし、当社の中核事業であるインダストリアルプロセス事業の中長期での更なる成長拡大を目指すことが目的となります。

■ 業務提携に伴うアプライド マテリアルズ社とウシオの役割

- アプライド マテリアルズ社

- ・ デジタルリソグラフィテクノロジー(DLT)システム技術を開発
 - ・ 長年のディスプレイ分野経験、大型基板処理ノウハウ、幅広いヘテロジニアスインテグレーション技術保有
- => 1 μm以下の高度なパッケージングに向けた継続的なイノベーションを可能にするために、ウシオと共に、市場拡大が見込まれる最先端ICパッケージ基板向け市場の将来ロードマップの作成と研究開発を促進

- ウシオ

- ・ 高度な最先端ICパッケージ基板用途における豊富な導入経験を保有
(同分野ヘリソグラフィシステムを全世界で4,000台以上提供)
- => 製造ノウハウ及び顧客インフラを活用し、新たにDLTシステム技術搭載の露光装置/ソリューションの導入を加速

業務提携におけるウシオの役割ですが、アプライドマテリアルズ社が保有するデジタルリソグラフィテクノロジーをベースとした最先端ICパッケージ基板向け露光装置の共同開発を進め、その後、当社の製造及び顧客基盤を活用し、事業化及び拡大を目指していきます。

まずは、昨年11月の契約締結を受け、アプライドマテリアルズ社からの業務移管及び当社での製造ラインの構築を進めると共に、新たな製品ラインアップによる受注活動を進めております。

■デジタルリソグラフィテクノロジー(DLT)とは？

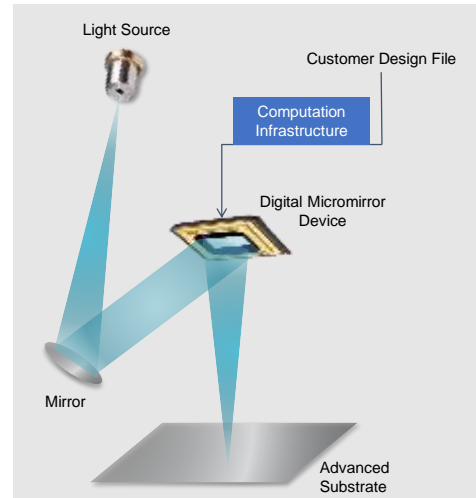
- 「マスクレス」のリソグラフィ技術

- ・ フォトマスクなしで基板への直接転写可能
- ・ フィールドサイズの制限なし

- 高生産性、高精細化に対応する複数の革新的技術

- ・ 高度なデータ処理技術により、基板に描画する光への制御性能が格段に向上
- => 描画時に、基板の“歪み”や“ダイの配置誤差”を調整することで、歩留まりが飛躍的に向上

DLT技術を搭載したDI露光(イメージ図)



Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 25

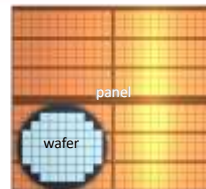
アプライドマテリアルズ社が保有するデジタルリソグラフィテクノロジーとは、従来のダイレクトイメージング露光システムに、高度なデータ処理技術を搭載したものです。

これにより、高度なパッケージ基板に対し、歪みやダイの配置誤差を調整しながら処理を行っていくため、解像力の高い処理が実現するとともに、従来の生産性を維持しつつ、歩留りを飛躍的に向上させることができる、画期的な技術です。

■最先端ICパッケージ基板市場の今後の動向

- AI進展に伴う大型チップ化・チップレット化

- => より高度な大型パッケージニーズが増加
- => 高度なパッケージにおける基板革新
(新素材(ガラス)やサイズ(パネルなど))



■現行の露光装置の課題

- 光学ステッパー

- ・大きな基板サイズに対し
 - ショットサイズに制限あり
 - 繋ぎ合わせが必要
- => 歩留りの悪化やタクトの悪化

- ダイレクトイメージングシステム*

(*DLT技術を搭載しないDI)

- ・高度な基板に対する解像力や重ね合わせ精度
- ・生産性



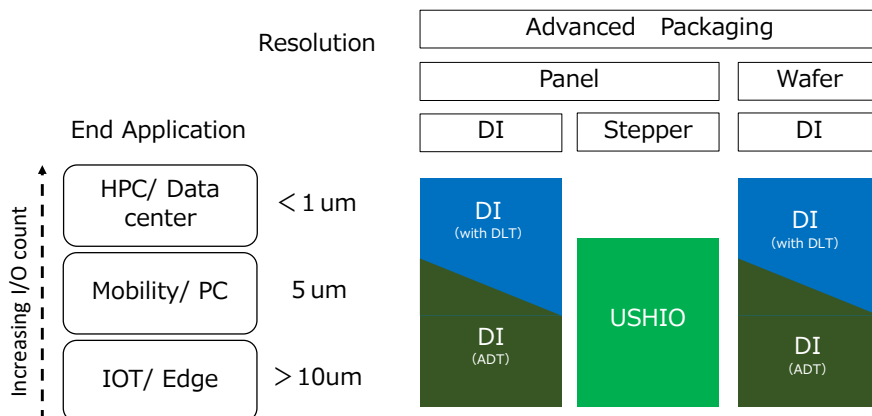
Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 26

最先端ICパッケージ基板は、今後、生成AI向けでの需要増加とともに、チップの大型化やチップレット化が進むことで、より高度な大型パッケージ基板の需要が高まると考えています。また、高度なパッケージにおいては、基板自体の革新も進むと考えています。

この進化に対応する新たな技術革新が必要であり、デジタルリソグラフィテクノロジーを搭載した露光装置では、このニーズに適した提案が可能となります。

また、ご説明した技術進化に対しては、既存の光学ステッパー及びダイレクトイメージングシステムの技術では記載の課題があり、デジタルリソグラフィテクノロジーを搭載した露光装置によって、これらを解決できます。

■ 製品ポートフォリオ (イメージ)



Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 27

今回の業務提携で、デジタルリソグラフィテクノロジーを搭載した露光装置が新たに製品ラインアップに加わります。既存の露光装置も含め、それぞれに特徴があり、ラインアップ強化により、今後のICパッケージ基板の進化に対し、あらゆる方向性をカバーできます。

それぞれの製品がカバーする領域は、記載のイメージとなり、これによりターゲット領域を拡大することで、事業成長を目指してまいります。

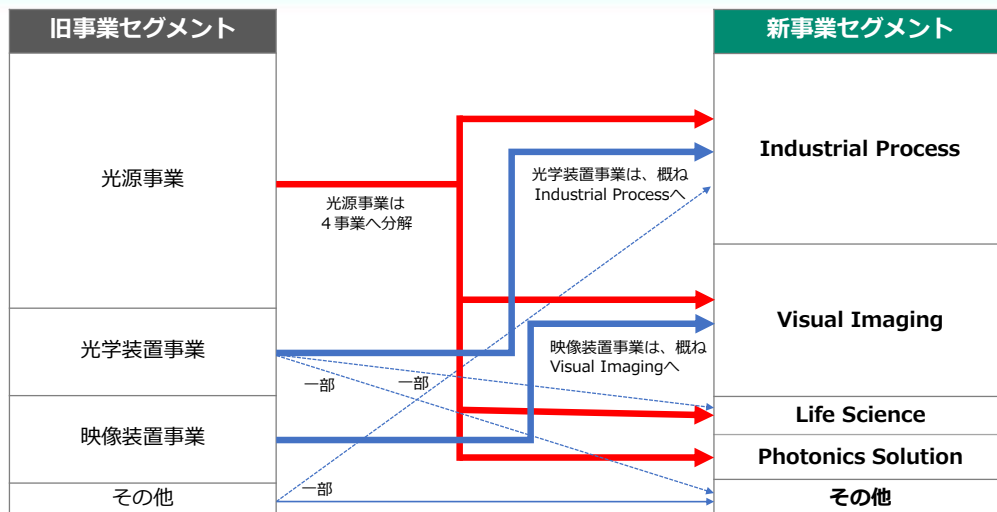
以上で私からの説明を終わります。

- I. 2023年度 3Q業績概要
- II. 2023年度 通期業績予想
- III. アプライド マテリアルズ社との業務提携
- IV. 参考資料

(新)事業セグメントと主な製品

事業セグメント	主要事業・製品	製品例					
Industrial Process	光源： 露光用ランプ、OA用ランプ、光学機器用ランプ他 装置： 露光装置、キュア装置、EUVマスク検査用光源、保守メンテナンスサービス他	 露光用ランプ	 OA用ランプ	 投影露光装置	 ダイレクトイメージング露光装置	 EUVマスク検査用EUV光源	
Visual Imaging	光源： シネマ用ランプ、データプロジェクター用ランプ他 装置： デジタルシネマプロジェクター、一般映像向けプロジェクター、映像関連機器、保守メンテナンスサービス他	 シネマ用ランプ	 データプロジェクター用ランプ	 デジタルシネマプロジェクター	 一般映像用プロジェクター	 ディスプレイLEDウォール  映像周辺機器	
Life Science	光源： 「Care222®」搭載製品他 装置： 紫外線治療機器他	 抗ウイルス・除菌技術「Care222®」搭載製品	 紫外線治療機器「セラビームシリーズ」				
Photonics Solution	光源： 固体光源	 固体光源 (LD/LED)	 レーザーモジュール				

参考：報告セグメント区分変更



サブセグメント別の新旧関連図はスライド31~32を参照ください

参考：セグメント区分変更(旧光源事業 → 新事業セグメント)

旧事業セグメント			新事業セグメント		
報告セグメント	サブセグメント		サブセグメント		報告セグメント
光源事業	ハロゲンランプ	●OA	●露光用ランプ	光源事業	Industrial Process
		●照明	●OA用ランプ		
		●その他	●光学機器用ランプ	光学装置事業	
	放電ランプ	●UVランプ	●露光装置		
		●映画館	●光学装置その他		
		●データプロジェクター	●プロジェクター用ランプ	光源事業	
		●光学機器	●照明用ランプ		
		●その他	●シネマ	映像装置事業	
	●固体光源	●一般映像			
	光学装置事業	●UV装置	●ライフサイエンス用製品	光源事業 光学装置事業	
●キュア装置		●固体光源	光源事業	Photonics Solution	
●その他		●その他	光学装置事業		その他
映像装置事業	●シネマ				
	●一般映像				
	●照明装置他				
その他	●産業機械その他				

→ 1対1で紐づけできるもの

→ 分解又は集約が必要なもの

参考：セグメント区分変更(旧光学装置・映像装置・その他事業 → 新事業セグメント)

旧事業セグメント			新事業セグメント						
報告セグメント	サブセグメント		サブセグメント		報告セグメント				
光源事業	ハロゲンランプ	●OA	●露光用ランプ	光源事業	Industrial Process				
		●照明				●OA用ランプ			
		●その他				●光学機器用ランプ			
	放電ランプ	●UVランプ				●露光装置	光学装置事業	Visual Imaging	
		●映画館							●光学装置その他
		●データプロジェクター							●プロジェクター用ランプ
		●光学機器							●照明用ランプ
		●その他							●シネマ
		●固体光源							●一般映像
		●UV装置							●ライフサイエンス用製品
●キュア装置	●固体光源								
●その他	●その他								
光学装置事業	●シネマ	●シネマ	映像装置事業	Life Science					
映像装置事業	●一般映像	●一般映像	光源事業 光学装置事業	Photronics Solution					
	●照明装置他	●照明装置他							
その他	●産業機械その他	●産業機械その他	光源事業	その他					

→ 1対1で紐づけできるもの → 分解又は集約が必要なもの





次世代半導体量産用EUV光源
開発/生産/販売



(提供: TNO)

光源販売
メンテナンス

マスク検査装置メーカー
研究開発機関

半導体デバイスメーカー等

EUVリソグラフィの技術開発進展による次世代半導体の量産化ニーズ

検査、開発用光源のニーズ増大
ウシオのEUV光源が貢献



マスク検査用EUV光源需要増加
メンテナンス機会の増加

ウシオのEUV光源開発の歴史

- 2000年 EUV光源開発開始
- 2001年 EUVA*設立、参画
- 2013年 リソグラフィ用途から撤退
- 2016年 オランダ研究機関TNOへEUV光源納入
- 2018年 検査用（評価用）初号機納入
- 2019年 量産ライン用初号機納入、検収

*極端紫外線露光システム開発機構



■ウシオの強み

半導体業界での長いビジネス経験

+

長年積み重ねたEUV技術
(コンパクト/高輝度/高出力)

最先端ICパッケージ基板向け
分割投影露光装置 (UX-5)
製造、販売

■世界シェア：90%*

*最先端ICパッケージ基板市場
(ステッパ露光機市場)



最先端・次世代パッケージ
需要拡大

装置
販売

パッケージ基板
メーカー

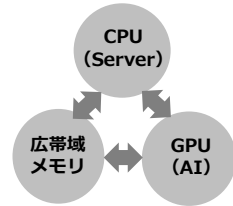
チップ実装
サーバー搭載

IoT進展に伴う大容量かつ高速データ処理用
データセンター向けサーバーの需要増加

データセンター市場：年率20%以上成長（自社調べ）
⇒ 次世代パッケージ基板の採用拡大

■ウシオの強み

1. 大面積一括投影露光
→ 高生産性、低CoO
2. マスクワーク非接触
→ 歩留まり向上
3. 広い焦点深度
→ プロセスマージン・基板反り対応
4. 高い解像力・重ね合わせ精度
→ 配線ピッチ微細化、プロセスマージン





ダイレクトイメージング露光装置

開発・製造・販売

微細化対応

高生産性

■世界シェア：50%*

*ICパッケージ基板市場
(DI露光機市場)



アプリケーションの革新に対応した
プリント配線板需要の増加

装置
販売

プリント配線板 パッケージ基板 メーカー

高密度化

多層化

■ウシオの強み

高解像力(ハイエンド)
世界最速の高生産性(ミドルエンド)
+
顧客本位の保守サポート能力

基板
搭載

5G導入による
各種アプリケーションの革新と需要の増加

データセンター
基地局
需要増

スマートフォン
通信機器
需要増

車載
需要増

5Gサービス
世界各国で
開始・拡大

消費電力対応

小型化対応

■最先端半導体のFOパッケージ、有機パッケージ基板（先端BGA）などに向けた直描式露光装置を開発

リリース全文（2021年7月12日発表）：

<https://www.ushio.co.jp/news/1002/2021-2021/500818.html>



四半期推移《損益》

単位：億円	2022年度				2023年度			前年同期比		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	増減額	増減率	
売上高	397	482	404	466	392	457	475	+70	+17.6%	
営業利益	44	56	34	23	20	29	52	+18	+53.3%	
営業利益率	11.3%	11.7%	8.5%	5.0%	5.2%	6.4%	11.0%	+2.6P	-	
EBITDA*	63	76	53	43	39	50	73	+20	+37.6%	
EBITDAマージン	15.9%	15.8%	13.2%	9.4%	10.1%	11.0%	15.5%	+2.3P	-	
経常利益	62	73	43	21	28	34	63	+19	+43.9%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	38	56	25	16	17	24	44	+18	+72.8%	
EPS(円)	32.18	47.87	21.80	13.78	15.36	21.65	40.72	+18.92	+86.8%	
為替レート (円)	USD	127	137	144	133	136	144	149	+5	-
	EUR	137	140	144	143	148	158	159	+15	-

* EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

四半期推移《セグメント別損益》

	単位：億円	2022年度				2023年度			前年同期比	
		1Q	2Q	3Q	4Q 参考値*	1Q	2Q	3Q	増減額	増減率
Industrial Process	売上高	198	275	193	233	174	203	225	+32	+17.0%
	営業利益	39	69	41	33	22	17	40	▲0	▲1.2%
	営業利益率	19.8%	25.4%	21.4%	14.5%	12.9%	8.4%	18.1%	▲3.3P	-
Visual Imaging	売上高	155	166	174	187	176	212	203	+29	+17.0%
	営業利益	12	8	6	5	6	23	15	+9	+151.9%
	営業利益率	7.8%	5.2%	3.6%	3.1%	3.5%	11.2%	7.8%	+4.2P	-
Life Science	売上高	14	13	12	15	13	13	13	+0	+7.0%
	営業利益	▲6	▲21	▲11	▲11	▲4	▲7	▲4	+6	-
	営業利益率	▲47.5%	▲158.3%	▲93.3%	▲73.0%	▲32.7%	▲57.1%	▲36.1%	+57.2P	-
Photonics Solution	売上高	23	23	20	25	25	25	28	+8	+39.2%
	営業利益	1	▲0	▲1	▲1	▲3	▲3	▲1	+0	-
	営業利益率	6.1%	▲3.0%	▲9.1%	▲7.1%	▲12.9%	▲14.9%	▲5.0%	+4.1P	-
その他	売上高	4	4	3	4	2	3	3	▲0	▲8.7%
	営業利益	▲1	▲0	▲0	▲3	▲0	▲0	1	+1	-
	営業利益率	▲26.5%	▲3.5%	▲6.1%	▲63.5%	▲22.9%	▲16.7%	51.7%	+57.9P	-
連結合計	売上高	397	482	404	466	392	457	475	+70	+17.6%
	営業利益	44	56	34	23	20	29	52	+18	+53.3%
	営業利益率	11.3%	11.7%	8.5%	5.0%	5.2%	6.4%	11.0%	+2.6P	-

* 各セグメントの2022年度の値は比較を目的に当社が作成した参考値

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 38

キャッシュアロケーション戦略

2023年5月公表の
中期経営計画より再掲



2023~25年度の3年間 : 自社株投資と成長投資への大規模な配分により資本効率の改善を目指す

キャッシュ創出

- 中計期間の営業CF : 3カ年累計で600億円
- 資産売却 : 150~200億円
- 有利子負債活用 : 400+α億円 資本コストの引き下げ

キャピタル・アロケーション

- 戦略投資 : 400+α億円 M&A含む成長投資 : 400+α億円
- 財務基盤 自己資本比率 : 60%以上を維持
- 自社株投資 + 配当 : 3カ年累計で700~900億円程度
 - ・ 安定的な配当
 - ・ 自社株投資は、資本効率や業績、資金状況を勘案し、積極的に実施（初年度300億円の自己株取得枠を決議）

ROE 8%以上（FY2025目標）を目指す

<Cash-in>



<Cash-out>



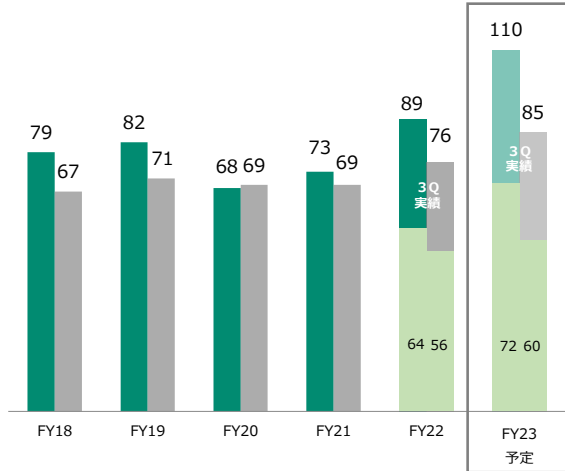
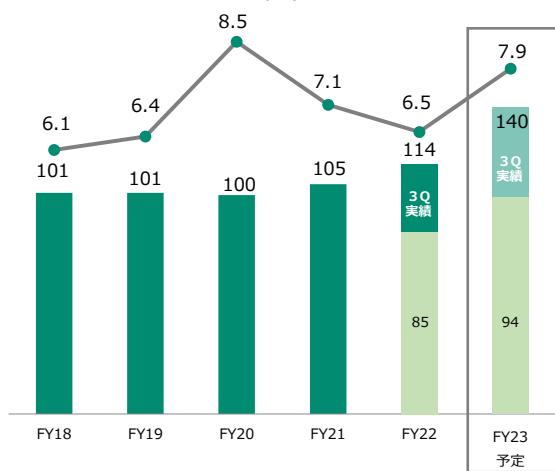
地域別売上高比率



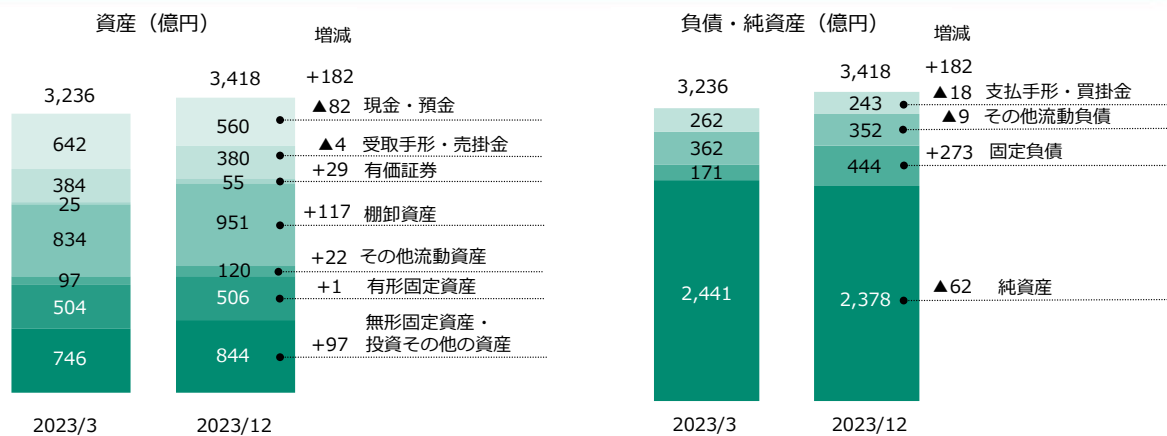
研究開発費／設備投資額・減価償却費

■ 研究開発費 (億円)
 — 売上高研究開発費率(%)

■ 設備投資額 (億円)
 ■ 減価償却費 (億円)



貸借対照表

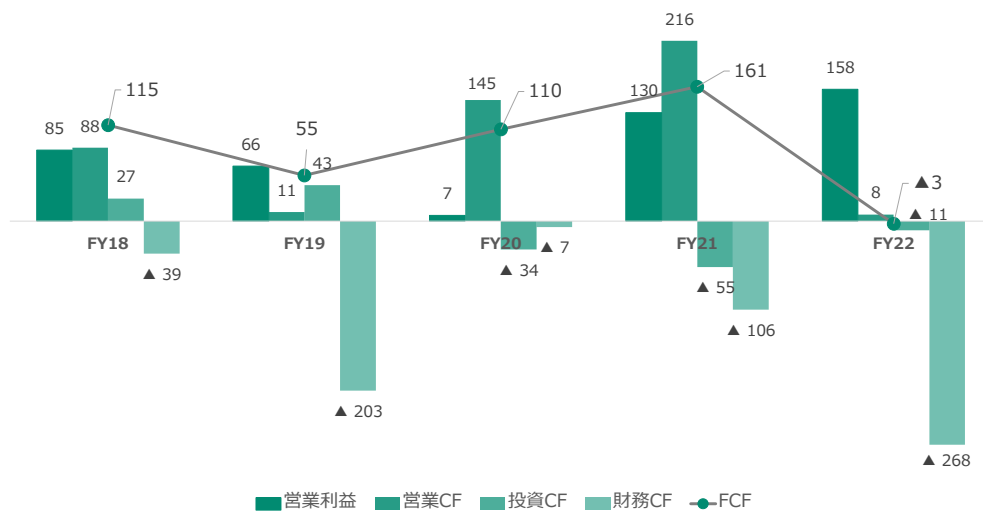


回転月数 (ヶ月)	2023/3	2023/12
売上債権	2.5	2.6
棚卸資産	5.1	6.1
CCC	6.0	7.0

自己資本比率 (%)	2023/3	2023/12
	75.4	69.6

キャッシュフロー推移

単位：億円



AI	Artificial Intelligence	人工知能
APMI	Actinic Patterned Mask Defect Inspection	EUV光を使ったマスク欠陥検査装置
BGA	Ball Grid Array	半田ボールを格子状に並べた電極形状をもったパッケージ基板
CoO	Cost of Ownership	導入コストやメンテナンスコストなどを含めた、使用者（オーナー）が負担するコスト
CPU	Central Processing Unit	中央演算処理装置
DCP	Digital Cinema Projector	デジタル・シネマ・プロジェクター
DI	Direct Imaging	マスクを使わず、直接描画する露光方式
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
FPD	Flat Panel Display	フラット・パネル・ディスプレイ
GPU	Graphic Processing Unit	画像を表示するために必要な計算を行う半導体装置
IoT	Internet of Things	モノがインターネット経由で通信すること
OA	Office Automation	オフィス内の事務作業の自動化や効率化を図ること
TNO	The Netherlands Organization of Applied Scientific Research	オランダ応用科学研究機構
UV	Ultraviolet	紫外線
5G	5 th Generation	第5世代移動通信システム

IRサイトリニューアル及びIRメール配信サービス開始のお知らせ

- 当社オフィシャルWebサイト「投資家情報」をリニューアルしました。よりアクセスしやすく、ウシオの現在～未来を知っていただけるような構成に整理しました。
- 法定開示や適時開示、その他IR情報等、ウシオのIRニュースを開示後適時にメールでお届けできるように**IRメール配信サービス**を導入しました。IRサイトからご登録いただきますようお願いいたします。

Revised Point
01

個人投資家の皆さま向けコーナーを新設
シンプルでわかりやすさを意識した構成に
することで、利便性の向上を図りました。



Revised Point
02

コンテンツの新設
当社のビジネスをより身近に感じて
いただけるコンテンツを拡充しました。



Revised Point
03

IRメール配信登録機能を追加
個人投資家の皆さまにも料ニュースをいち早く
お知らせできるよう機能を追加しました。



IRメール配信登録は
こちらから



「大和インターネットIR表彰 2023」
「優秀賞」受賞



<免責事項>

本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞
ウシオ電機株式会社
コーポレートコミュニケーション部 IR課
(03) 5657-1007
ir@ushio.co.jp
<http://www.ushio.co.jp/jp/ir>